

# 令和6年度 鹿児島学力・学習状況調査の結果【公表】

鹿児島市立甲東中学校

令和7年1月20日～23日に実施された「鹿児島学力・学習状況調査」の結果をお知らせします。  
【教科ごとに、本校生徒の課題及び今後の改善策について示しています。】

## 1 調査の概要

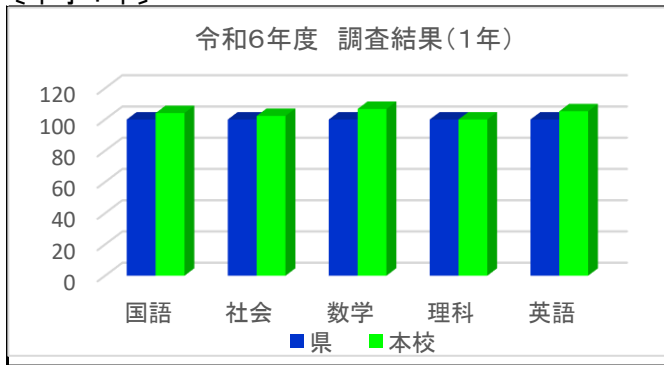
学習指導要領において身に付けることが求められている基礎的・基本的な知識・技能、思考力・判断力・表現力等に関する学力状況を把握するとともに、児童生徒の学習に関する意識や学び方などの学習状況を把握する。また、各学校に全県的な傾向との比較・分析を通じて、自校の課題を明確にし、問題解決的な学習活動を取り入れ、個に応じたきめ細やかな指導方法改善を図ることを目的として実施するものである。

## 2 調査の実施日

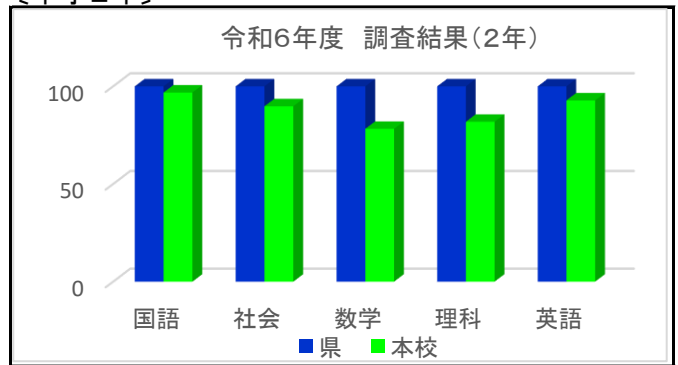
- a 学力検査 令和7年1月20日(月)・21日(火)【2年生】、22日(水)・23日(木)【1年生】  
 中学1、2年生対象(国語、社会、数学、理科、英語)  
 b 学習状況調査 令和7年1月17日(金)

## 3 本校の各教科結果概況

〔中学1年〕



〔中学2年〕



## 4 各教科の主な課題及び今後の改善策

<ul style="list-style-type: none"> <li>●知識・技能の学力が不十分である。 →ワーク等を利用し、基礎の確認を徹底する。</li> <li>●論理的な文章構成についての読み取りが不十分。 →概要把握や論理構造を分析的に読む工夫を図る。</li> </ul>	国語	<ul style="list-style-type: none"> <li>●記述式の問題に苦手意識が見られる。 →授業の最後に文章でまとめる活動を多く取り入れる。</li> <li>●知識・技能の学力が不十分である。 →ワーク等を利用し、基礎学力の定着を図る。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>●世界の地域構成、世界の諸地域の正答率が低い。 →地図帳や雨温図の活用を充実させる。</li> <li>●歴史の時代区分の表記を苦手としている生徒が多い。 →西暦や世紀について確実に理解させるように、小テストを充実する。</li> </ul>	社会	<ul style="list-style-type: none"> <li>●計算を伴う問題が苦手である。 →地形図や時差に関する問題に多く取り組ませて、慣れさせる。</li> <li>●資料の読み取り、文章の説明が不十分。 →かごしまWebや単元テストを利用し、書き慣れさせる。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>●表やグラフから数量の関係や情報を読み取ることができていない。 →表やグラフの変化や特徴について考察する時間を増やす。</li> <li>●図形の性質をことばで表現することに課題がある。 →ペアやグループ活動を通して、説明し伝え合う場面を設定する。</li> </ul>	数学	<ul style="list-style-type: none"> <li>●文章題やグラフから適切な用語や数量を抽出し、説明することができない。 →考え方や求め方を、根拠をもとに説明する場面を多く設定する。</li> <li>●図形分野の基本的な見方や考え方が定着していない。 →空間図形の概念や原理について、小テストで確認し、定着を図る。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>●基本的な用語を理解していない。 →ISHIN TIMEや小テストなどで定着を図る。</li> <li>●化学分野の定着・通過率が低い。 →理科的なものの見方や考え方を高める学習の仕方を工夫する。</li> </ul>	理科	<ul style="list-style-type: none"> <li>●記述の問題の正答率が特に低い。 →実験結果の意味を考え、説明する場面を多く設定する。</li> <li>●2分野(生物・地学)の基本事項の通過率が特に低い。 →ISHIN TIMEや小テストなどで繰り返し学習し定着を図る。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>●基本的な単語を正しく綴ることができない。 →家庭学習に取り組むことで正確な綴りを定着させ、小テストなどで定着を図る。</li> <li>●基本的な語順が定着していない。 →授業の帯学習で正しい文章で話したり書いたりする時間を設定する。</li> </ul>	英語	<ul style="list-style-type: none"> <li>●書く力の正確性に課題がある。 →書く意欲が見られる生徒が多かったので、英語の宅習で正確性を高めさせる。</li> <li>●文のルール(時制・前置詞など)の知識が正確に身につけていない。 →ISHIN TIMEでの単語指導にプラスして、英文の構造についてのトレーニングも取り入れる。</li> </ul>

## 5 今年度取り組んでいる学力向上策

- 本年度の校内職員研修において、「主体的・対話的で深い学びの充実とICT活用を目指す授業実践」を研究テーマに設定し、研究授業を行っています。その際、全職員で共通の授業改善の視点を設け、各教科の指導力向上につなげています。
- 土曜授業の際には、「ISHIN TIME」という基礎・基本の定着を図る生徒同士の学び合い学習を進め、学力向上につなげています。
- 本校では、各種検定(英検、漢検、数検)への積極的な挑戦も促しています。また、PTA会費から検定料の一部を助成し、学力向上につなげています。
- ICT機器を効果的に活用した授業づくりの研究に取り組んでいます。